

令和1年11月6日

第3回 第6次総合計画等審議会

1. 参加者（敬称略）

（ア）委員

黒田、津久井、大年、水野、笹本、佐野、大野、福居、小塚、渡辺（良）、岡田、山田、白井、阿部、渡辺（篤）

（イ）アドバイザー

小嶋、鴨田

（ウ）中学生

白井、小澤、宇田、外岡（舞）、外岡（愛）、外岡（琉）

2. 会長挨拶

3. 総合計画について

（ア）第6次総合計画の全体像について

① 職員より説明

② 意見

1. 委員

総合計画の構成については、結論を先に持ってきては如何か。

別冊を作って住民向けのものがあってもよい。

見出しを読んで理解できるような仕立てがよい。

ワーキングでも協働の重要性には触れられた。町民の意識改革は必要。

そのためにも町役場の意識改革がまず重要ではないか。

2. 委員

合併特例法の延長の社説を紹介。（合併特例法やメリデメ等）

危機感を抱いていなかった。スローガンのような甘い言葉ではなく、もう少し厳しい言葉を使ったほうが良いと感じる。

10年後の生活の在り方が可視化されるように、文章をわかりやすく。住民に寄り添うようなスタイルが良い。

3. 委員

現状の行政サービスを維持するような人口規模は何名か示す。

協働を進めるには住民への説明が必要。

4. 委員

どういう姿を目指すのか。というヴィジョンを持つことはとても大切。

スローガンを具体的に10年後の姿に落とし込むべきではないか。

例えば“ひとにやさしく”ということであれば、行政サービスが維持できない中での助け合いの姿を示すといったような。

(イ) 人口推計と将来目標人口について

- ① 職員より説明
- ② 意見

1. 委員

目標で人口が減るのは望ましくない。

推計は別として目標は希望があるものにしたほうが良い。

人口増の自治体を指標に持ってはどうか。

人口 10,000 目標を提案する。

様々な課題は人口がある程度キープできれば解決できる。その点で人口の目標を大きく持つ姿勢は示しやすい。

2. 委員

人口について、基本的には増えないと思っている。例えば、共立湊病院の跡地にサ高住の計画があった。実現すれば+100 人。交流人口・関係人口の概念があればシナジーが発生して産業は振興できると感じている。

3. 委員

住民や行政職員は住民減少についてはある程度理解している。行政運営に対しての危機感

沿岸部は 30 年間で人口が半減している。沿岸部は勤務地にして、生活をする場所は内陸にまとめることが起こりうるという危機を共有する。

思い切った人口減少の周知につとめなくてはならない。

4. 委員

人口について、町独自の推計が望ましいと感じる。あまりにも低いと希望を持ってない。

(ウ) 中学生の意見（南伊豆で暮らしていくことにどんなことが必要か。町の課題）

① 中学生

大人になっても戻ってきたい。海を活かしたイベントがあるとよい。

② 中学生

あたたかさ、自然の良さ。ロボットに仕事をとられる時代。シビックプライドを持つことが大事だと感じる。

③ 中学生

若年層が高齢者と接する時間を増やして町に対しての関係地を増やしたほうが良いと感じる。

(エ) 委員の皆様から頂いたご意見について

- ① 職員より説明

## ② 意見

### 1. 委員

分校の活用が特徴的であると感じる。

林業が産業になりえるのか。木材が観光・エネルギー・防災に行かせないだろうか。【2 鴨田アドバイザーへ】

農業高校でのリカレント教育はあるのか。また、都会で暮らしづらい子供を受け入れるのはどうか。森林譲与税もある。検討を。【3 岡田委員へ】

### 2. アドバイザー

燃料として使われていた山が現在多く残っている。自然の豊かさの象徴である面、一方で獣害も増加してくる。

急峻な土地に巨大な木が林立すると民家等への被害も想像できる。

山の課題は複雑にリンクしているので、燃料利用や発電を通して就業機会も増え、可能性は大いに秘めていると捉えている。

### 3. 委員

現状、リカレント教育については考えていない。しかしながら都会からの生徒において、下宿等になると、学校独自は難しい。県外からの入学の問い合わせはあった。受け入れる体制を整えば呼びかけも行っていきたい。

学科を加えるというのは非常に難しい。林業の増設については教員の確保や学校林の整備等ハードルは高い。生徒の中には意欲を持つ子もいる。

第2回審議会意見について、廃坑のルールやコメントに誤りがある。諦めという感情はまったくない。

### 4. アドバイザー

静岡県には林業高校が唯一存在している。

地元の方々が地元の高校をどう評価しているのか。松崎・河津の子供たちが来たくくなるような高校づくりとは。町としてどうしていくか。

全国から分校で勉強したいと思えるような環境づくりを総合計画に盛り込んでもよいかもしれない。多面的な人材育成に取り組めるとよいのではないか。

### 5. 委員

県の教育・校長・町の産業等様々な要素が絡み合っている中で、生徒数が現在減少している。人数が少ない。

しかしながら少ないながらも優秀な生徒も輩出している。

現在の農業従事者が高齢の移住者へ指導をする。

大学の学部を誘致する。

分校を盛り上げる。といった地域おこしの委員会を立ち上げては如何か。

(オ) まちづくりの主要課題と計画の方向性について

① 職員より説明

② 意見

1. 委員

協働について、町民の関心が薄い町から町民に対する働きかけについては疑問がある。問題を提起できるような働きかけから協働が生まれるのではないか。“各地区”にもっと働きかけをしてはどうか（例えば、温泉や林業の活用等）

観光の活性化について、長期滞在者を増やす方が良いのではないか。

2. 委員

仕事がないというのが現状。雇用先の確保を下田高校南伊豆分校としてはお願いしたい。

3. アドバイザー

Uターンを進めるのであれば、帰ってきたいと思えるまちづくりを進める必要がある。大人たちの役割。シビックプライドの醸成が重要

4. 委員

計画の骨格は安心して子供を産み育てる町であるべき。それに付随して医療や雇用の確保、産業の活性がある。  
ふるさとを愛せるような仕立てにするとよい。

5. 委員

地方創生交付金の使い道は【6 事務局へ】

共立湊病院の跡地の活用は波及効果が大きいのでぜひ進めてほしい。  
旭山動物園は活用したケースとして有名。なにか事業を起こせるとよいと感じる。

医療関係について、ドクターヘリの運用について厳しいと伺った。ドクターヘリについては持続的に運営をお願いしたいので文言を盛り込んで欲しい。

観光業について、再訪したくなるような取り組みが必要ではないか。

6. 事務局

6→生涯活躍のまちづくりの推進に充てている

8→その時々学べる機会を創出するという点を示している。

7. 委員

今後の産業振興について、町民向けということは理解しつつも観光が主要産業の町であるから、産業の活性・就業の中に観光のテーマを盛り込んでいただきたい。

8. 委員

子育て・教育分野について教育分野という文言より生涯学習という文言を使っていただきたい。【8 事務局へ】

9. 会長

ワーキングで出た課題として、協働をどうするかという中身を厚くしてはどうか。

簡単な説明を盛り込んで欲しい。高齢者が見ても理解できない。

10. 委員

産業誘致に力を入れたい、いの一番に考えるべきではないか。仕事があつて初めて子育て、介護につながっていく。

(カ) 最後に

① アドバイザー意見

1. アドバイザー

災対の部分になるが、町民自ら考えて動く。という姿勢は素晴らしいと感じた。災対だけでなく、町民のそういった感情を抱きかかえて町民と町政が一体感を持った施策を期待する。

この地にあるものに根付いた産業がもう一度取り戻すことができたらよい。町民自らの手で切り拓くという必要性も感じた。

② 中学生意見

1. 中学生

Uターン希望、帰ってくるにしても、企業誘致等で雇用先があると助かる。

2. 中学生

高齢者の負担を減らすため、バスの本数等で工夫し高齢者の住みやすいまちにしたい、私自身も貢献したい。

3. 中学生

周りの人たちは林業や農業を目指す人はいない。  
大企業や大きな工場のほうが魅力的なのではないか。

4. 中学生

自分の考えていない新しい発見があった。これを機にもっと考えたいと思う。

5. 中学生

戻ってきたときに、桜並木や弓ヶ浜がきれいな状態であることが望ましい。そうしたら次は自分たちが守っていこうと思える。